

No. 29 2026年6月14日  
 会堂建設記念/三位一体後第二主日礼拝  
 説教『まことの安らぎを求めて』  
 吉丸初美師  
 司会 吉丸初美さん  
 奏楽 自動演奏機  
 招詞 エペソ人手紙 2章14～17節  
 主の祈 (5 6 4)  
 讃詠 5 4 6  
 交読詩編 詩 3 6 編  
 祈禱 美歌 2 1 - 4 3 0  
 使徒信条 (5 6 6)  
 聖書 マタイ福音書 11章25～30節  
 説教 (口語訳17頁,新共同訳20頁)  
 『まことの安らぎを求めて』  
 祈禱 美歌 2 1 - 5 4 0  
 献金  
 感謝  
 報栄 5 4 1  
 祝禱  
 後奏

次週の礼拝(沖縄慰霊の日を覚える主日礼拝)  
 説教『見つける喜び、見つけ出される喜び』  
 ルカ福音書 15章1～7節  
 招詞 I テモテへの手紙 1章16節/交読詩篇54編  
 讃美歌546、21-433、21-447、542

礼拝当番  
 今週 14日 司会 吉丸初美さん  
 来週 21日 司会 安部愛さん  
 会堂清掃奉仕 7月5日(日)  
 コーヒータイム後に行ないます。

本日の集会

★教会学校 午前9時45分  
 ★コーヒータイム 礼拝後～  
 それぞれの思いを語り合しましょう。

今週の集会/スケジュール

♫ 広島キリスト教信徒会理事会 6月11日(木)10時30分  
 於:広島復活教会  
 ♫ めぐみ幼稚園創立記念日(休日)6月16日(火)  
 ★聖書を読む会 6月16日(火) 10時30分～12時  
 創世記18章を読みます。  
 ★広島西分区牧師会 6月16日(火)15時～  
 於:広島流川教会

次週以降のスケジュール等

♫ 広島拘置所教誨奉仕 6月17日(金)13時30分～14時  
 施設にある方の信仰を覚えてお祈りください。  
 ♫ めぐみ幼稚園礼拝 6月19日(金)10時30分～  
 ♫ めぐみ幼稚園参観日 6月21日(日)午後より  
 ●レコードコンサート 6月21日(日)13時～15時30分  
 《シューベルト》  
 弦楽四重奏曲 第13番 イ短調<ロザムンデ>  
 ピアノ五重奏曲 イ短調<ます> D 667  
 交響曲 第8番 ロ短調<未完成>D 759  
 興味ある方は是非参加ください。  
 ♫ めぐみ幼稚園参観日代休 6月22日(月)  
 ♫ めぐみ幼稚園誕生日礼拝 6月26日(金)10時～  
 二名の園児がお誕生日を迎えます。  
 子どもたちの成長保育者の働きを覚えてお祈りください。  
 ♫ 広島キリスト教信徒会総会6月28日(日)15時～  
 於:広島復活教会  
 ★聖書を読む会 6月30日(火) 10時30分～12時  
 創世記19章を読んでいきます。  
 祈りと、賛美、御言葉を声に出して読んでいます。

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	1	3	4

◇今週の説教要旨(会堂建設記念/三位一体後第二主日礼拝)  
 説教『まことの安らぎを求めて』マタイ福音書11章25～30節  
 今日教会再建76年目記念礼拝を守ります。原爆投下により灰になった教会は、当時観音町にありました。信徒の方々は被爆され、家族を失い一瞬にして絶望へ突き落とされました。しかし、彼らは祈りの場を再建しようと立ち上がったのです。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのものにきなさい。」という主の声を聞いたのでしょうか。神の恵みは人間が最も無力になった時に強く注がれ、その時こそ人間は心の底から本気で神を求めるのではないのでしょうか。彼らは主の招きに自らの意思で応え、主と共に再び歩みだしたのです。そして今のこの場所に再建されました。今を生きる私たちの「重荷」とは何でしょうか。不安定な経済。「強く豊かな日本」は私たちの思いとは程遠いもののようにです。どこを向いても「重荷」ばかりのように感じる現在に「まことの安らぎ」はあるのでしょうか。もしあるとすればそれはどこにあるのかを聖書は示しています。揺るぎない平安と休息。でも、そこには欠かせないことがありました。それは誰と関係を持ち、誰に寄り頼むかです。この世の知恵では理解できない。それは「幼な子」のようになること。知識や経験、自信や人からの評価など多くのものを握りしめている人は神の御心に従うことをためらい、自分のものや自分の心を選んでしまいます。でも、両手に何も持たず生きているとイエスさまに呼びかけられたら、何時でもためらうことなく従うことができます。主が低い姿で人から拒否され侮辱され、この世の知恵では評価されない方法で現れても主を受け入れて従うことができます。私たちが自分の重荷の事しか考えられず、神のことを思うことができず人の重荷に心を傾けるゆとりがない時、私たちは最も疲れます。重荷は一人で担うのではなく、イエスさまが共に担ってください。「幼な子」になることは簡単なことではありません。主イエスを神の独り子救い主と信じる恵みの中、私たちが忘れてはならないことは「人を愛する気持ち」ではないのでしょうか。神から離れるほど疲れているとき、心の中は何に奪われていますか。まことの安らぎは愛に包まれています。